

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援 て・あーて		
○保護者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○訪問先施設評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	9件	(回答数) 6件
○事業者向け自己評価表作成日	2026月1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員それぞれの専門性を活かして適切に支援が行われていること。	例えば、お1人のお子さまに対して、心理士・言語聴覚士・保育士らが会議を行い、それぞれの専門的視点からアセスメントや意見交換を行うケースもあります。それぞれのお子さまにとって、誰が主支援者となるのが良いか、誰が連携支援者となるのが良いかを検討して支援を開始しています。	主支援者となれる職員を増やすため、支援者会議への参加の増進や研修の受講を推奨し、支援の質の安定と継続的な安定を図っていきます。
2	保護者との報告・相談を丁寧に行っていること。	訪問支援実施後の報告は、電話・対面に加えて書面でご説明しています。個別セラピー等で来園された際には相談の時間を確保して、お子さま・保護者さまのご相談やお困りごとに対応しています。	個々の職員のスキル向上のため、保護者との面談に立ち会う機会を増進して行きます。
3	事業所の業務改善を推進していること。	日々の業務の中で職員間の情報共有や相談の時間を設けています。また、職員の研修機会の確保を積極的に行っています。評価結果の集計は第三者委員によって行われています。	これらの取り組みを通して得られた学びや気づきを業務に活かし、事例の振り返りや研修内容の共有を行い、訪問支援の質の向と業務改善の更なる推進を図っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先施設の職員の方との連携時間の確保ができていないこと。	訪問先施設の職員の皆様に、お忙しいところ訪問の受け入れをしていただいています。また訪問支援員の都合もあり、訪問支援の前後に対面で面談のお時間をいただくことが難しいケースが多い状況です。別日にお電話でお話をさせていただくこともあります。	お電話・オンライン・メールなど、訪問先施設に合わせて、報告・相談しやすいツールで連携を行っています。
2	家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）、保護者・兄弟等も参加できる研修会や情報提供・交流の機会などが提供できていないこと。	事業所としてイベント活動を発案することが出来ていません。	児童発達支援・放課後等デイサービスのご利用者さまへと同じように、外部で開催している研修やイベントの案内を連絡アプリで配信して行きます。また、日頃から事業所で行っている療育活動に、保護者や兄弟に参加を促すようなイベントを検討して行きます。
3	定期的な通信やホームページ・SNS等での情報発信を行っていないこと。	主に訪問先での支援が中心となるため、事業所の日々の活動を更新していくようなSNS発信を行っていません。個人情報が含まれる情報の公開は慎重に行いたいと考えています。	不特定多数へ向けた情報発信ではなく、関係者に対して必要な情報が適切に届くよう、個別の情報共有や事業所の役割を分かりやすく伝える工夫を行っています。